

ココヤシチップの優れた性質

1 根の生育がよい!

復元後は気相率の高いふかふかの培養土となる。
根が呼吸しやすいため生育がよい。

2 保水性と通気性を両立!

ふくらむ培養土、すくすくベツ土はココヤシチップの中でも特に細かなチップを原料として使用しているため極めて保水能力が高い。同時に通気性も高いため余分な水は排出され、根腐れが起こりにくい。

3 長期間の栽培で使える!

繊維構造が強く、長期間高い物理性を維持。

4 水やりによる失敗が少ない!

吸水性・親水性が高く、極度に乾燥してもすぐに吸水する。

5 持ち運びがラク!

約1/6の重さに圧縮しているので軽くコンパクト。

6 手が汚れにくい!

湿ったココヤシチップに触っても、払えばすぐに落ちる。

7 可燃ゴミOK!

100%植物由来の原料のため、使用後は可燃ゴミとして捨てられる。

※お住まいの自治体の取り決めに基づき処理してください。

ふくらませた状態



ふかふかの上質な培養土

従来の培養土



時間が経つと土の構造が壊れて詰まってしまう。
→通気性、排水性が悪くなる。

ふくらむ培養土



土壌構造が強く、長期間粒子の間隔が保たれる。
→空気、水分が多く根がよく育つ
だから植物全体の生育がよい!!



ふくらむ培養土で栽培した植物の根



ラクラク
持ち運び♪

地球環境に優しい次世代の原料

現在世界中で幅広く園芸用土として利用されているピートモスは水ゴケなどの植物が長年堆積したものを掘削しているため、実はその資源としての枯渇が危惧されています。一方熱帯で毎年大量に生産されるココヤシの実、主にその中のココナッツミルクやオイルに利用されます。外殻の部分は縄やタワシなどに使われる繊維を取り除いた後、従来廃棄物として処理されてきました。ココヤシチップはその廃棄部分を利用して、ココヤシの生産が続く限り持続的に生み出される循環型の資源です。また、圧縮して軽くコンパクトにできるため運送段階でのCO₂発生も大幅に抑えることができます。そのため今、次世代の用土として世界的に注目を浴びています。

